



各位

2019年11月1日

株式会社いばらきスポーツタウン・マネジメント

街中で、ホーリーホックとロボットのコラボ実現へ
まちなか・スポーツ・にぎわい広場は2つのチームホームタウン「情報発信拠点」に！

M-SPO が水戸ホーリーホック・茨城ロボッツとともに事業説明会を実施

このたび、株式会社いばらきスポーツタウン・マネジメント（代表取締役社長川崎篤之、以下「ISTM」）は、2019年11月1日に水戸市南町のまちなか・スポーツ・にぎわい広場内において、株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック（代表取締役社長 沼田邦郎、以下「水戸ホーリーホック」）、株式会社茨城ロボッツ・スポーツエンターテインメント（代表取締役社長 山谷拓志、以下「茨城ロボッツ」）、水戸ど真ん中再生プロジェクト（座長 堀義人 グロービス経営大学院学長、以下「ど真ん中プロジェクト」）とともに事業説明会を実施しました。

ISTM が一部運営する まちなか・スポーツ・にぎわい広場（水戸市南町3丁目、以下「M-SPO」）を拠点に地域に密着した2つのプロスポーツクラブのさらなるコラボレーションを実現し、スポーツを通じて水戸の中心市街地活性化をさらに力強く推進するために、2020年1月の施設の一部リニューアルの実施と、水戸ホーリーホック・茨城ロボッツとの連携施策および関連事業を充実させていくことを表明しました。

■説明会出席者

水戸ど真ん中再生プロジェクト	座長	堀 義人
株式会社フットボールクラブ 水戸ホーリーホック	代表取締役社長	沼田 邦郎
株式会社茨城ロボッツ・スポーツエンターテインメント	代表取締役社長	山谷 拓志
株式会社いばらきスポーツタウン・マネジメント	代表取締役社長	川崎 篤之



■今後の取り組みについて

【趣旨】

水戸ど真ん中再生プロジェクト第3弾として、水戸市と茨城ロボッツ（いばらきスポーツタウン・マネジメント）の協働で設置をした「まちなか・スポーツ・にぎわい広場（M-SPO）」は2017年9月のまちびらき以降、2年が経過しました。

街の真ん中からスポーツの力で元気にする。M-SPOが掲げる理念を実現するためには、茨城ロボッツのみならず、水戸ホーリーホックとも一緒になって2つのプロスポーツのホームタウン拠点の一つとして、この場所が「役割」を果たしていく必要があると考えます。そのような中、2019年7月には水戸市主導で「MITO BLUE PRIDE 2019」イベントを開催し、両クラブがともに協働し地域のにぎわいをつくることのできたことは大きな一歩でとなりました。

国体を経てオリンピックイヤーを迎える2020年、M-SPO施設を一部リニューアルし、2つのプロクラブがコラボレーションをしながら地域を盛り上げていく場所へと進化をさせていきます。

【事業内容（図はすべてイメージ）】

①M-SPOTERRACE BLUE×BLUEの2020年1月オープン

└勝利イベントの開催、ファンイベントの開催、パブリックビューイングの実施



②M-SPO VISION を活用したパブリックビューイングの実施、集客施策の実施



③両クラブのフラッグの掲示



④M-SPO ショップ でのホーリーホック関連商品の取り扱い

⑤コラボレーション商品の開発、販売

⑥その他、合同イベントの企画、開催

■ 出席者コメント（抜粋） / 各組織・クラブ紹介

水戸ど真ん中再生プロジェクト 座長 堀義人

<https://mitoproject.jp/>

この街中にどのようににぎわいをつくるかを考え、2年前にアリーナ、スタジオ、カフェ、広場からなる M-SPO をつくった。今年の7月にカフェがロボッツの直営になったことをきっかけに、抜本的な改革を進める決意をした。スポーツによる街づくりのコンセプトの明確化、季節や天候に左右されないにぎわいづくり、ホーリーホックやロボッツが勝った時にその喜びをともに爆発させられるような場づくりやイベントの実施が3つの柱だ。Jリーグ、Bリーグの垣根を越えてシナジーを効かせ、街のにぎわいや両クラブの観客動員につながるような好循環をつくっていくために、この場所にさらなる投資を行うこととした。

株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック 代表取締役社長 沼田 邦郎

<http://www.mito-hollyhock.net/>

水戸の市街地を活性化していくことは非常に重要なことだと認識をしています。私ものこの近所に生まれ育った一人。人口が減り、活力が失われたとは言われてはいるが、スポーツというコンテンツが街の真ん中にあることでにぎわいをつくり、交流人口を増やし、定住人口を増やしていくということにつながっていく。ホーリーホックはロボッツと一緒にこのプロジェクトに協力をし、できることから一緒に取り組みを進めていければと考えている。

株式会社茨城ロボッツ・スポーツエンターテインメント 代表取締役社長 山谷 拓志

<https://www.ibarakirobots.win/>

茨城ロボッツはスポーツを通じて地方創生の魁モデルとなることを掲げて取り組みを進めている。2 年前に M-SPO をこの場所に作り、ハードソフト両面から多くの事業を展開し、まちなかに人とお金の流れをつくっていくことをこれからも進めていく。この流れをより力強いものにするために、ホーリーホックさんの力を借りながら、情報発信できる仕掛けをつくり、街のメディアとしての役割を果たしたいと思っている。この街にスポーツがあっただけよかった、元気になったと言ってもらえるようにこれからも努力をしていきたい。

株式会社いばらきスポーツタウン・マネジメント 代表取締役社長 川崎 篤之（進行）

<https://m-spo310.com/>

M-SPO の運営をこれまでやってきた中で大きな変化は、街の真ん中の芝生の広場で、アリーナで、スタジオで、カフェで豊かな時間を過ごし、様々な取り組みをし、街で遊ぶという大人と子供が少しずつ増えてきていること。たくさんの方が M-SPO の活用のアイデアを持ってくる。街を楽しみたい人は確実にいる。今回、ホーリーホックさんにご協力をいただくことにより、これまでのロボッツの取り組みと併せて、さらに楽しい街への提案が可能になる。これをきっかけにさらにこの場所を楽しんでくれる人を増やしたい。その積み重ねがまちの活性化につながるので、精一杯取り組みを進めていく。

※茨城ロボッツの 100%子会社として、M-SPO の運営と地域活性化事業を担う。2018 年 1 月設立



=====
本リリースへのお問い合わせは以下までお願いいたします。

株式会社いばらきスポーツタウン・マネジメント 川崎（代表） 金子（M-SPO 広報担当）
029-353-7623 info@m-spo310.com